

感染症は歴史を動かしてきた

①14世紀のペストは欧州経済を揺るがした

革の防護服を着た
医師のイメージ

②スペインかぜの経済損失は大きかった

インフルエンザが流行し、マスク姿で担架を持つ女性たち
(1918年、米セントルイス)=ロイター

③経済も政治も変革迫られる



人影がまばらなJR渋谷駅前(4月8日午後)

「世界恐慌以来、最悪の不況になる」と警告する。国際秩序もゆらぐ。国境封鎖、管理が強まり、米中冷戦が激化し、統合欧州にも亀裂が走っている。危機に乗じて強権的な政権が独裁色を強めている。指導力

またたく間に、世界のヒト、カネ、モノが動かなくなった。グローバル化が滞るだけでなく、各国経済も急速に冷え込んでいく。国際通貨基金(IMF)は、

世界が一変した。新型コロナの感染拡大で、世界経済が縮小し始めた。国同士の緊張も高まっている。人類は感染症との長い闘いで経験を積んだはずだが、備えが足りなかった。パンデミック(世界的大流行)から何を学ぶか。

読む
ヒント

編集委員 玉利 伸吾

パンデミックから何学ぶ

【さらにオススメの3冊】

- ①『人類と感染症の歴史』(加藤茂孝)…いかに社会、歴史を動かしてきたか。
- ②『暴力と不平等の人類史』(シャイデル、鬼沢忍・塩原通緒訳)…かつて感染爆発が経済を直撃した。
- ③『感染症と文明』(山本太郎)…暮らしぶりや社会のあり方が流行を大きく左右する。

脅威忘れられがち
国際協力回復が鍵

を發揮する国もなく、各国の対応が持続。……
古代から現代まで、感染症は人類を脅かし、人口や経済を左右してきた。歴史の病気をあぶりだしたものと家、W・マクニールは、その影響を現代人は忘れがちだと指摘する。(『疫病と

パンデミックの痕跡を想像するのは難しい。14世紀のペスト大流行で欧州は人口の3分の1を失い、農業や商業などが大きく変わった。17世紀のロンドンの惨状をダニエル・デフォォーが、『ペスト』(平井正穂訳)で描いている。人口の約6分の1が犠牲になったという。週刊紙を舞台に論陣を張った記者兼作家は、経済への影響も細かく追っている。

恐るべき疫病に「全世界が極度の警戒の色を示したのは当然」だった。貿易はとまった。輸出品の製造は中止され、英国船は海外の港に入れなくなった。感染防止で、会合や催し、飲食店の営業は禁止。「あらゆる商売がとまり、雇用は停止された」

就活の関連情報はこちらへ 18歳プラス面では就職活動中の大学生の疑問や不安にこたえる記事を掲載しています。関連情報を電子メールnikkei048@nex2.nikkei.co.jpへお寄せください。

被害は大きかったが、英、国はペスト終息後、マラリア、天然痘なども克服。その結果、人口が増えて、大英帝国の土台を築く。今と似ていると注目されているのが、100年前、第1次大戦末からのスペインかぜ(インフルエンザ、1918〜20年)。世界で5000万人、日本でも40万人が命を落としたといわれる、20世紀最悪のパンデミックだ。

マスク着用や外出自粛などの対策をとるが、医療崩壊も懸念され、社会が揺れた。その怖さを作家、志賀直哉が『流行感冒』(大正8年=1919年3月)で「事実をありのままに」書いている。病的に子どもの病気を恐れた。家に入れないように用心したが、じわじわ近づいてくる。植木職人からうつり、40度近い熱を出す。妻に伝染、頼んだ看護人も発病する。ついに、娘も感染する。

劇作家、島村抱月など多くの犠牲者が出たが、終息後は忘れられた。肺結核などの死者も多く、印象が薄れた。すぐ大戦後のバブル景気が到来。昭和恐慌、世界恐慌、第2次大戦へと大変動が続く、影響は十分に検証されなかった。

米国でも忘れられていたが、近年、研究が進み、経済への打撃、負の影響が大きかったことがだんだん分かっている。当時の各国も、国境を越

は随時掲載します。コラム「読む! ヒント」